

平成27年度

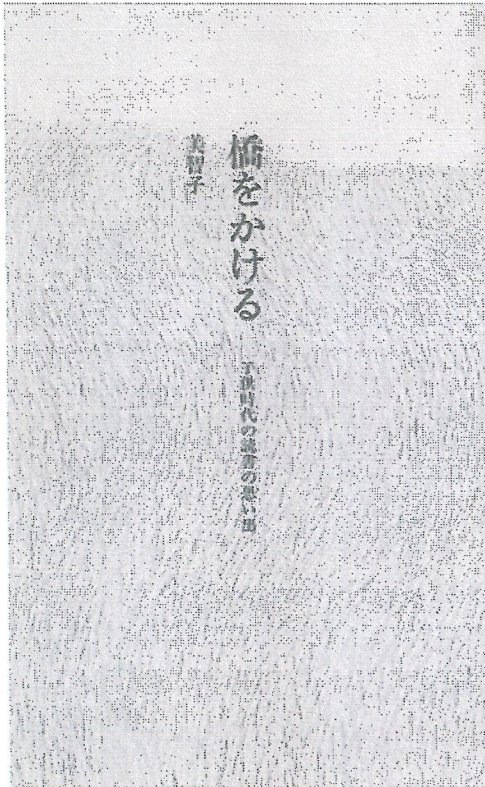
お薦めの本の紹介

- | | | | |
|---|---------------------------|-------|------------|
| 1 | 橋をかける | 美智子皇后 | |
| | 歌に私は泣くだろう | 永田和弘 | |
| | 希望の牧場 | 森 絵都 | 井上小 宮坂ゆかり |
| 2 | 鬼平犯科帳 | 池波正太郎 | 仁礼小 西原 秀明 |
| 3 | 神さまのいる書店 | 三萩せんや | |
| | 悟浄出立 | 万城目学 | 須坂小 金井 直樹 |
| 4 | 村上春樹の「物語」一夢テキストとして読み解く | 河合俊雄 | 小布施中 竹内 正 |
| 5 | あっぱれ のはらうた | 工藤直子 | 森上小 塚田久美子 |
| 6 | MASE | 恩田 陸 | |
| | クレオパトラの夢 | 恩田 陸 | |
| | ブラック・ベルベット | 恩田 陸 | 栗ガ丘小 清水幸子 |
| 7 | 日本語を味わう名詩入門17 | 新川和江 | 萩原昌好編 |
| | コーヒーと恋愛 | 獅子文六 | 栗ガ丘小 高野かおる |
| 8 | 人間は死んでもまた生き続ける | 大谷暢順 | |
| | 明日この世を去るとしても、今日の花に水をあげなさい | 樋野興夫 | 森上小 堀川博光 |

上高井文学同好会

本の紹介

2015 井上小 宮坂ゆかり



今さら？今さらですが…

①橋をかける—子供時代の読書の思い出

②著者名 美智子皇后 名字がない！

③文藝春秋社

④←

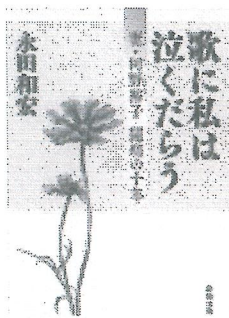
⑤本書は 1998 年インドで開催された国際児童図書評議員会第 26 回世界大会の初日に、ビデオテープにて上映された皇后様の基調講演を記録したものです。

宮坂は、1998 年の翌年頃、その基調講演記録を何かの資料で手に入れ、美智子様「平和」にかける強い思いや『でんでん虫のかなしみ』の存在を知りました。

「この話は、その後何度となく、思いがけない時に私の記憶に甦ってきました。(中略)生きていくということは、楽なことではないのだという、何とはない不安を感じることもありました。それでも、私は、この話が決して嫌いではありませんでした。」絵本と共にこの一節は長く心に残ってきました。

『でんでん虫のかなしみ』は明るいお話でもなく、励まして

くれるお話でもない。でもそのお話を「決して嫌いではない」と言って、世界に紹介された美智子様の心中を思うと、大きな落ち着きを感じます。そこで、今さらではありますが、この本を購入したというわけです。



二冊目は、短歌の本です。

『歌に私は泣くだらう』永田和宏 新潮文庫

戦後を代表する歌人河野裕子は永田先生の奥様です。乳がんの宣告を受けたその日から最期の日まで、限りある命と向き合いながら歌を詠み続けた夫婦の愛の物語です。

あの時の壊れたわたしを抱きしめてあなたは泣いた泣くより無くて
歌は遣り歌に私は泣くだらういつか来る日のいつかを怖る(和宏)



番外編です。今年度前半期 最も心を打った本です。『希望の牧場』

舞台が「フクシマ」だからでなく、原発 20 キロ以内だからでなく、殺処分をしない牧場だからでなく、「生きる」ってそういうことだったよね、と改めて思わせてくれた強い本だったからです。

『希望の牧場』森 絵都 岩崎書店 絵本です。

鬼平犯科帳 作 池波正太郎

仁礼小 西原 秀明



捕物のテレビ時代劇は、ほとんど興味なかったのですが、あることから『鬼平犯科帳』を観る機会がありました。最初は、「よくありがちな時代劇か」と漫然と眺めていました。見ていくうちに、ストーリーに引き込まれ、主演の中村吉右衛門の演技、立ち振る舞い、話し方、演じる長谷川平蔵の人柄がよくでていて、「素晴らしい」と思えるようになりました。また、エンディングで、時代劇らしくない「ジプシーキングス」のインスト曲が使われていて、その点も気に入りました。

他にも、これまで『鬼平犯科帳』はテレビドラマ化されていたようですが、どうも中村吉右衛門の長谷川平蔵が一番原作に近く、池波正太郎も気に入っていたということです。他の『鬼平犯科帳』もちょっと見ましたが、勧善懲悪の予定調和で、あまりよいと思いませんでした。それからは、中村吉右衛門主演の『鬼平犯科帳』がBSで再放送されると見るようになりました。そのうち、原作を読みたいと思うようになり、この機会にkindle版で購入させていただきました。

原作者の池波正太郎についても詳しくは知らなかったのですが、調べてみると、海音寺潮五郎から全く認められず、池波の直木賞候補の際には、酷評を繰り返し、受賞させなかったというエピソードがありました。これには意外な感じを受けました。さらに、池波が直木賞を受賞した際に、海音寺は、その受賞を認めず、直木賞選考委員を辞任したほどだったそうです。かなりの抗議の仕方です。「何もそこまでして」と思いますが、海音寺にとって、自身の持つ文学観と比して、池波の作品や文体にどうてい容認できない何かがあったのでしょう。

しかし、メディアの大衆性という面から評価すると、現在、その認知度やテレビドラマ化の数、DVDの数からいって、断然、池波作品に軍配があがっています。

ただ、原作を読みました。原作の長谷川平蔵より、私にとっては、中村吉右衛門の長谷川平蔵の方が魅力的で、描かれ方も優れているような感じがしています。これには賛成しかねる方もいらっしゃると思いますが、海音寺が容認できないほどではありませんが、原作にかなり期待していた分、ちょっと期待外れだった気がします。もしかしたらテレビドラマから入ってしまったから、中村吉右衛門の鬼平のイメージが強すぎるのかもしれませんが。

もし、海音寺潮五郎が、中村吉右衛門の鬼平を見たら、どんな評価をしたか、知りたいところです。

ところで、kindle版あるいは電子書籍については、賛否両論がありますが、老眼になりつつあって、物が捨てられない私にとっては、実にいいメディア媒体ですよ。

「神さまのいる書店」

三萩せんや 著

KADOKAWA 発行

本が好きだという自覚があるので、つい買ってしまいました。第2回ダ・ヴィンチ「本の物語」大賞受賞作だそうです。帯に、読者審査員の声載っていて、当然、褒めまくりでした。

魂の宿る生きた本、「まほろ本」というものが存在し、主人公はその本の中の人と心を通わせて、成長していくという、ファンタジー。スツキリとまとまっけていて、読みやすい話だと思います。ストーリー自体はスタートしてすぐに予想できてしまうし、実際その通りの話なので、ああビックリ、ということもありません。ですが、中・高生にはおすすめしたい。

「自分には居場所がない。いつからそう思っていたのか、紙山ヨミは、はつきりと覚えていない。」という書き出しで物語は始まる。クライマックスで起きる事件が解決した朝、「思われていたのだな、とヨミは他人事のように思った。」と、自分の周囲の世界に対して、見え方の変わる主人公が描かれる。「見方が変われば世界が変わる。」ことに気付いた主人公の成長に、若い人たちは共感できるのではないかな。また、共感してほしいな、とも思います。

というわけで、若い人に薦めてみたい物語として、読んでみてはいかがでしょう。

須坂小学校 金井 直樹

「悟浄出立」

万城目学 著

新潮社 発行

中国の古典をもとにした五つの短編が入った連作短編集です。どの作品も、元の古典では「脇役」である人物を、「主役」に据えて創作されています。

表題作「悟浄出立」は、西遊記の沙悟浄が主人公。三蔵法師の弟子として西方への旅を続けているが、自分はなぜこのように心が覚めた「力なき傍観者」なのか。物語の脇役としての役割を果たしているだけなのではないか。ある日、猪八戒が、かの天蓬元帥であったという話を聞く。あの八戒が、天界一の名将？今の八戒からは思いもよらない。敵の妖魔にとらえられ、暗闇の中で、悟浄は八戒に事の実情を尋ねる。はたして八戒はかつて天蓬元帥だった。過程には目もくれず結果のみに価値を見出すことで勝利をおさめ続けた。その八戒が言う。「悟浄、本当は俺は知っているんだよ。過程こそがいちばん苦しい、ということね。さらには天界と違って、この人間界ではそこに最も貴いものが宿ることもある、ということもね。」この言葉を聞いて、悟浄は自分の道を歩み出します。過程こそが、苦しくかつ貴い。誰もが自分の足で歩むことに価値があるということでしょう。どの作品も「己は誰なのか、どう生きるのか」と問い掛けていると感じました。皆さんは、どうお感じになるでしょうか。

須坂小学校 金井 直樹

- ① 本の題名 『村上春樹の「物語」－夢テキストとして読み解く－』
- ② 著者名 河合俊雄
- ③ 出版社 新潮社
- ④ 感想

ユング派の心理療法は「夢やイメージ」を重視する立場で、いわゆる現実や常識とは異なる世界に接することが少なくない傾向がありますが、一面、村上春樹作品におけるそれは、意識のアバンギャルドとも言われ、『スプートニクの恋人』などは近代意識と対比的であり、現代の意識を見事に描き出していると述べられます。河合氏の論考「村上春樹の小説におけるポストモダンの意識」は「世界の物語と個人の物語」という視点が主軸となって「解離と超越」というテーマでまとめられていますが、本書はあたかも心理療法における夢の解釈のように村上作品を読み解いている点がとても興味深く思われます。

河合氏は『発達障害への心理療法的アプローチ』の中でも、類似したテーマで現代の状況を捉えており、新しい時代精神の動きを感得する糸口がうかがえるように思います。

小布施中学校 竹内 正

- 1, 本の題名 あっばれのはらうた
- 2, 著者名 工藤直子
- 3, 出版社 童話屋
- 4, 紹介文

詩集「のはらうた」ができてから、昨年2014年は30周年！

愛されつづけて「あっばれ！」とお祝いの1冊です。

総勢125人の仲間を代表して、かぜみつるくんなど24人の書き下ろしエッセイと、代表作48編。

そして、巻末には、125人の仲間全員が1枚に取まった、大判カラー切り絵「のはらみんな」が付いています。



ISBN978-4-88747-121-4
C0092 ¥1800E

定価(本体1800円+税)



のはらうた30年記念

くどうなおこの あっばれ自慢ばなし
かまきりりゅうじはじめ のはらむらの
詩人24人の書下ろしエッセイと 名詩48編

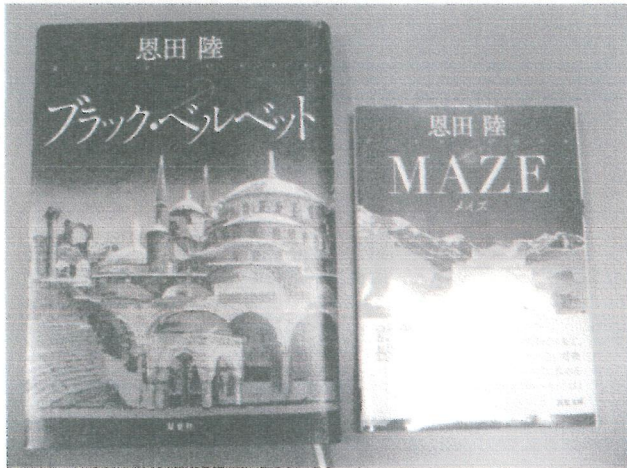
★のはらみんな125人の絵入り

童話屋 定価(本体1800円+税)



- 「のはらうた」1～V 各定価(本体1250円+税)
- 「ねこはしる」「ゴリラはごりら」「ふくろうめがめ」
- 「くどうなおこ詩集」「えいごのはらうた」 各定価(本体1450円+税)
- 「のはらうたわっはっは」「わっしょいのはらむら」
- 「歌画面のはらうた」1～V 各定価(本体1300円+税)
- 「絵本のはらうた」 定価(本体950円+税)
- 「かぜのこもりうた」 定価(本体1340円+税)

童話屋



『MASE』 恩田 陸

双葉文庫

恩田陸の作品はかなりの作品がすでにある作品のオマージュだそうですが、この作品も『CUBE』（目が覚めると謎の立方体（CUBE）に捕らえられていた数人の男女。誰が何の目的で閉じ込めたのかも分からないまま、彼らは死のトラップが張り巡らされたこの立方体からの脱出を試みる。という映画）からヒントを得て

書いたそうです。

もちろんヒントにただで、恩田さんのMASE（迷路）はさすが・・・の作品です。アジアの西の果て荒野に立つ直方体の白い建物（MASE）に入った人間の中には戻れない人間がかなりおり、その謎を解明すべく人間離れした記憶力を持つ神原恵弥が登場します。

神原恵弥は精悍な面差しの男性なのに、女言葉を繰り出す不思議な魅力の持ち主です。読み終わるとすっかりファンになってしまいます。

『クレオパトラの秘密』（双葉文庫）は神原恵弥の登場するシリーズ二作になります。今度は日本の北国H市が舞台です。恵弥の双子の妹が不倫の果てに流れ着いた街から、連れ戻すという名目で訪れた裏に、外資製薬会社の名ウイルハンスターとして 恵弥には重大な目的がありました。「クレオパトラ」と呼ばれる謎の存在を探して暗躍する人々がいたのです。



謎が謎を呼ぶ展開にページをめくる手が止まりません。

そして、最近、シリーズ三作目の『ブラック・ブルベット』（双葉社）が出版されました。今回は今回の舞台はT国。トルコでイスタンブールが出発地点です。恵弥の軽快で朗らかそして茶目気たっぷりの台詞まわしに引き込まれます。

友人に頼まれた人探し+自分の仕事に関わる謎の薬を探してT国を1周する勢いで観光します。薬や公害に関わる外資企業の黒い噂や事件がこれでもかと話に上り、日本だけでなくどこもかしこも綺麗事ではないのだと実感します。

神原恵弥が大活躍というわけでないところが、やや不満ですが、相変わらずの恩田ワールド（読後の不思議感）を味わえるのは確かですし、恵弥が外資製薬会社を辞めてフリーとして活躍するであろう四作目に期待したいところです。

（栗ガ丘小 清水 幸子）

おすすめ本の紹介

「日本語を味わう名詩入門17 新川和江 荻原昌好編」

著者 新川和江 荻原昌好編

出版社 あすなる書房

なんと言ってもこの詩が有名。

この詩をご存じない方、うろ覚えになっている方のために念のためお伝えしますと、この詩はまだ続きます。全部紹介できないのが残念！とても素敵なのに…

多感な年頃に読んだ時とはまた違った印象です。女の中のしなやかさ強さ美しさを感じます。小難しさはなく、するっと溶け込めます。この他にも素敵な詩がたくさんあります。

前向きな気持ちにさせてくれる詩集だと私は思います。でも他の方が読んだら違う印象を受けるのかもしれませんが、それが詩のよいところですね。このごろ詩が好きです。なぜだろう？大人になったからかな？

わたしを束ねないで
あらせいとつこの花のよつこ
白い葱のよつこ
束ねないで下さい わたしは稲穂
秋 大地が胸を焦がす
見わたすかぎりの金色の稲穂



「コーヒーと恋愛」

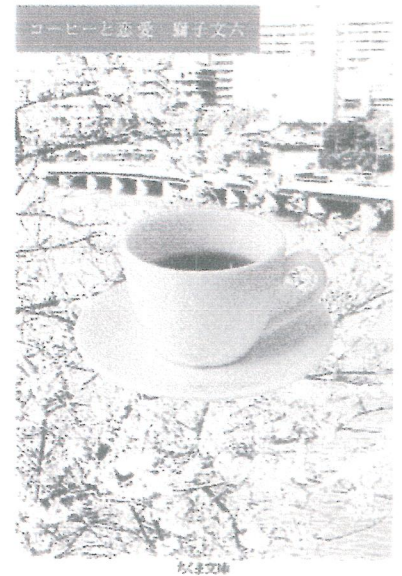
著者 獅子文六

出版社 ちくま文庫

「もう、コーヒーの本場は、日本だね」というフレーズ

何だかちょっと新鮮な感じがしました。

昭和30年代に新聞連載されていた小説だそうです。テレビが珍しく、コーヒーもやっと庶民に知れ渡り、海外旅行は選ばれた人だけが行く、そんな時代背景です。「恋愛」なんて付いている題名があまらずばくて買うのが恥ずかしかったのですが(平安堂で購入したので…アマゾンで買えばよかったのね)、静かな音楽を聴きながらコーヒーを傍らに置いて、リラックスして読むのをおすすめする本です。さあ、〇ターボックスへ行って一緒に読書タイムしませんか。



栗ガ丘小学校 高野かおる

平成27年度 文学同好会 本の紹介

紹介者 森上小学校 堀川 博光

①紹介する本 「人間（ひと）は死んでもまた生き続ける」

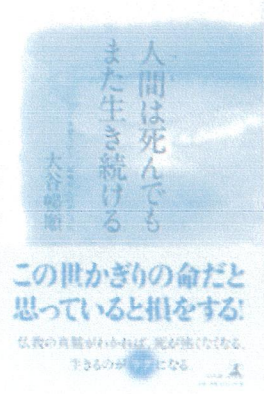
①著者名 大谷暢順（おおたに ちょうじゅん）
（本願寺法王 天皇陛下の従兄で親鸞の子孫）

③出版社名 幻冬舎

④本の表紙写真

⑤心に残る言葉や文

「死ぬのは怖くない」
本心からそういえる人は、はたしてどのくらいいるのでしょうか。しかしながら、
仏の教えを知って信じる心を持つと、死語の安心が得られるだけでなく、この世を生きることには喜びを感じずにはいられなくなります。
つらいことがあっても、「大したことはない」「ああ、ありがたい」と、それまでとは違った思いがわいてくるのです。



⑥その他 ※本書の構成は以下のようになっております。
第一話 自分の思い通りになることが幸せにつながるわけではない
第二話 人間は死んでも、また生き続ける
第三話 なぜ不条理なこの世を生きなければならないのか
第四話 人は「情け」を知るために生まれてきた
第五話 どうすれば幸せになれるか

自分たちが生きていの中で、常に次から次へと心の中から生まれ出てくる、思い、願い、惑い、憂いなどと、どのように向き合えばよいのかを学ばせていただきました。

①紹介する本 「明日この世を去るとしても、今日の花に水をあげなさい」

②著者名 樋野興夫（ひのおきお）
（順天堂大学医学部 教授 がん哲学外来理事長）

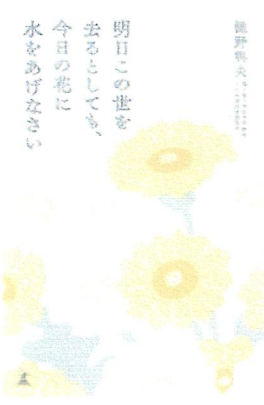
③出版社名 幻冬舎

④本の表紙写真

⑤心に残る言葉や文

全力を尽くして心の中で「そっと」心配する

死はどんな人にも確実に訪れます。だからといって、いつ訪れるかわからない死におびえて生きることはありません。
「いつか死ぬ」ことを覚えておくぐらいで十分です。
全力を尽くして、あとのことは心の中でそっと心配しておけばいいんです。
世の中にどうしてもいいことはたくさんあります。
でも本当に大切なことは少ないものです。



⑥その他 ※本書の構成は以下のようになっております。
第1章 人生の役割をまっとうするまで人は死なない
第2章 自分の人生を贈り物にする
第3章 本当に大切なものはゴミ箱の中にある
第4章 命に期限はありません
第5章 最後に残るものは、人とのつながり
第6章 小さな習慣で心が豊かになる

2008年1月に、「医師と患者が対等の立場でがんについて語り合う場」として、がん哲学外来を開設して以来、メスも薬も使わずに3000人以上のがん患者と家族に生きる希望を与えた樋野先生。自分たちが直に樋野先生とご対面してお話を聴いていただくことはできませんが、本書を読めば、心を癒やしていただけるように思います。「人はどう生き、死ぬまでに何をすべきか」を教えていただきました。